

佳作

剣道で心身を鍛錬する

山形県東根市立第二中学校

2年 竹田 朔太郎

剣道の理念は、「剣の理法の修練による人間形成の道である」と全日本剣道連盟は定めている。僕は中学から剣道を始めた。部活動の見学に行き、迷いなく入部を決めた。理由は、剣道をする先輩方がりりしく、引き締まった様子に感銘を受けたこと、道場に漂う緊張感に格好良さがあり魅力を感じたからだ。

剣道は道着、袴を着用し、面、胴、小手の防具を着用する。夏は暑く、汗が流れてくる。特に今年の夏は猛暑が続き連日暑い。立っているだけでも汗が流れてくる。暑さに集中力が切れ、気持ちが負けそうになる。だが、正座し面付をすると気持ちが引き締まるのである。これは、武道を学ぶことで礼儀正しさが身に付くだけでなく、相手への思いやりや、感情を抑えて黙々と修練を継続する忍耐強さなど、武道の基本精神が身に付いてきているのだと実感できる瞬間だからである。また、静まり返った剣道場が神聖な空間に感じる時でもあり、心地よい緊張感の漂うこの時間が僕は好きだ。

剣道を始めて約1年半が経過した。私は、剣道部の部長を務めることになった。部長には立候補した。部長になることで、自分自身をもっと修練したいと思ったのと、やはり剣道が好きだという思いからだ。男女合わせて6人の少人数ではあるが、男女まとまりのある、所作や型を大切にしていける剣道部にしていきたいと考えている。

武道の精神については、試合においては作法を守り、また相手への敬意を示すことが、何よりも重んじられるべきである、とある。礼儀・礼節をもって試合に臨むことは勝敗よりも重要であるという考え方である。相手への敬意を表すことで自分自身をコントロールできる側面を持っている。武道の魅力を日々実感している毎日である。

私の曾祖父は長年剣道を続けてきたという話を聞いた。私が幼いころ他界したために、剣道の話は詳しく聞けなかったが、私が剣道を始めたことをきっかけに、親戚が集まる機会があると剣道の話が多くなった。その話を聞く中で、「じじちゃんに剣道を教えてほしかった」という思いが大きくなるのだ。私が剣道を始めたことに曾祖父との強い運命的なつながりを感じた。

もうすぐ新人戦がある。公式戦での1勝が目標だ。礼節を重んじながら、一本を取りたい。剣道は相手との勝負ではあるが、「己との闘い」でもある。竹刀を握ったからには精神を集中させ、自分に自信を持って気合いを十分に発揮し

たいと思う。

10年後の私へ。

剣道は続けていますか。どんな職業に就いてどこで働いていますか。

私は剣道を始めて、「礼儀正しさ、忍耐強さの獲得」を学んだ。挨拶や言葉遣いなど、「基本的な作法」を身に付けているだけでなく、対人関係での気配りや敬意、慎みの気持ちをもって行動できるようになりたい。剣道で学んだことは、今現在も将来の自分の生き方へも生かされてくると思う。

もうすぐ2学期が始まる。新人戦、運動会、二中祭などイベントがたくさん予定されている。私は後悔ないように、勉強、部活に精いっぱい取り組んでいきたい。「継続は力なり」座右の銘であるこの言葉のように、毎日の積み重ねが将来の自分へつながることを信じて精進していきたい。